

2022年度 東京蜘蛛談話会例会

1. 日時 2022年12月11日(日) 10時より(開場9時30分)
2. 場所 東京環境工科専門学校 〒120-0022 東京都墨田区江東橋3-3-7
JR 総武線 東京メトロ半蔵門線 錦糸町駅南口から徒歩3分
3. 連絡 当日は、東京環境工科専門学校の電話が使用できないので、緊急時には以下に連絡ください。

加藤輝代子 090-7012-6458 初芝伸吾 090-6156-8378

4. その他 パソコン、プロジェクター、用意いたします。
5. 講演をご希望の方は、演題と使用希望機材

(スライド、OHP、コンピュータ)
を事務局初芝までお知らせください。

〒186-0002 東京都国立市東3-10-8 コンフィデンス高垣 105
有限会社エコシス 初芝伸吾

mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.jp

Tel : 042-501-2651 Fax:042-501-2652

● 錦糸町駅南口から徒歩3分です。



多摩だより（6）高尾山の採集会と・・・

新海 明

もう、死語になってしまったが、北多摩・南多摩・西多摩と東京都の西部を指す地名だった三多摩地方の住人にとって高尾山は、日帰りのハイキングあるいは小学校の遠足の場所として知らぬ人はいないだろう。最近になってミシュランガイドで紹介されたのをきっかけに高尾山のリニューアル計画が進み、それ以前さえゴールデンウィークなどの時期には決して近づけなかったこの山は、さらに足を向けるのを躊躇うようになってしまった。TVなどで放映された画面を見る限り、ケーブルの終点から山頂へと続く道はさながら原宿の竹下通りにも匹敵する混雑ぶりだ。こことて、60～70年代は閑散とした都会の裏通りに過ぎなかったのだが。

私が高尾山を初めて訪れたのは家族ハイキングの折だったと思う。兄ですらクモ採集など未だしていない幼少期の頃のことだ。一方、クモの採集で初めて行ったのは1969年4月の談話会の採集会だった。ケーブルの左脇から伸び山頂へと続くもっとも一般的な登山道。今では、自然観察路6号路と言われている道を琵琶滝までたどり、そこから右手の山の斜面を急登してケーブルの山頂駅へと出る裏道がこの採集会のメインルートだった。琵琶滝の手前までの6号路の山沿いの岩の崖地にはキノボリトタテグモがいた。私はそれまでに兄からキノボリ探しの手ほどきを受けていたので、次々に岩にへばりつく苔の中に潜むキノボリの巣を見つけて意気軒高だった。琵琶滝へ着くと、その周囲のアオキの葉裏にはホシミドリヒメグモやコガネヒメグモが網を張っていた。そして修験者たちが滝に打たれながら修行を極める琵琶滝のすぐそばの社の裏手から急斜面の山道をたどると尾根筋へと続く、むき出しになった崖の山道が開けた。ここでトタテグモ探しが始まったのは言うまでもない。このルートをたどるハイカーは今も少なく、当時は思う存分にクモ採集に集中することができた。

しばらくすると「何をしているのですか」と後ろから声をかけられた。「またかあ」。私は琵琶滝までの6号路でもハイカーにしばしば同じことを聞かれていた。やっとハイカーが少なくなり煩わしさから解放されたと思っていたのに・・・だった。「土の中のクモを探しています」と答えて振り返ると、そこにいた方から「この山は動植物採集禁止ですよ」と咎められてしまった。やり取りの詳細は忘れてしまったが、高校生だった私は大いに狼狽えたことだけは鮮明に覚えている。・・・と、そこへ萱嶋先生がやってきた。そして「私どもは許可を得て学術研究で調査をしているのです」「このような調査は採集しないと何もわからないのです」と間に入って来て事なきを得た。おそらく



キノボリトタテグモの巣

高尾の博物館や都の自然保護課などに許可を受けていたはずもないのだが、先生の機転により助けてもらった。

その後も、暇があれば足慣らしとばかりに高尾山へと通った。学生時代には高尾の山で準備をして尾瀬に行き、尾瀬の山で足を慣らしてから南アルプスへと通ったが、今では高尾山に行くのに近所をウォーキングして準備しなければならなくなった……。年齢を重ねればこうなるのは必然である。

おそらくその頃に、高尾山の周辺の山道はすべて歩きまわったと思う。そしてその当時からハイカーでにぎわっていたこの山は、その後も人気の衰えを知らず、登山客は増加の一途をたどり続けた。私はいつしか高尾山を離れて、その調査地は房総の清澄山、八王子城址や五日市の広徳寺へと移って行った。長じて、樹木の種類も見分けられるようになり、たまさか訪れた高尾の植物相を改めて見直すと「ナルホド、高尾山はすごい」と、うならされた。暖帯林と温帯林が入り混じった森林の景観は言うまでもなく、そこに棲む昆虫や動物そしてクモも多様性に富み、まさに「自然の宝庫」であるのは疑いようもない。しかし、都会の自然派の方々の興味はミシュランであり温泉さらにケーブルカーで気軽に登れ、お猿の遊園地のある山としか認識されていない気がする。

かつて、私が足しげく尾瀬の山々に通っていた頃に大学の友人に「尾瀬を守りたいのなら尾瀬に行かないことだ」と言われたことがあった。「そんな極論を……」と思ったものだが、今になって考えると確かに一理ある。尾瀬や高尾山に行くな……とは思わないが、「皆が行くから一度は行ってみようか」とか「手軽に行けるなら行くが、面

倒ならやめた」さらに最近では SNS に投稿するために山に登り、結果として滑落の中継までしてしまうという、この国の人々の傾向や山行の文化は、おそらく治癒するはずもないのだが、私自身も含めて見直す必要があるのかも知れない。

入退会は：

事務局 初芝伸吾 〒186-0002 東京都国立市東 3-10-8

コンフィデンス高垣 105 有限会社エコシス

E-mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

通信原稿投稿先：

谷川明男 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416

E-mail : dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

通信の原稿締め切りは、4 月末、8 月末、12 月末です。

KISHIDAIA 原稿投稿先：

谷川明男 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416

E-mail : dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

ファイルサイズが大きくてメール添付できない時には、ドロップボックスやグーグルドライブの転送機能・共有機能、宅ふぁいる便やデータ便などの転送サービスをご利用ください。（これまで利用していた Yahoo Box は、アップロード機能を廃止してしまいましたので利用できません。）

キンダイアの原稿締め切りは、6 月末日と 12 月末日です。

本年度からは 6 月末、12 月末を目安とし、予算枠内のページ数まで先着順といたします。

東京蜘蛛談話会の会費は、一般 4000 円、学生 1000 円です。

（しばらくの間会費を値下げしておりましたが、2022 年度より元の水準に戻し、一般 4000 円、学生 1000 円といたしました。）

会費は郵便振替口座 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会へお願いします。

会費・住所変更は：会計担当 須黒達巳

〒150-0013 渋谷区恵比寿 2-35-1 慶應義塾幼稚舎

TEL : 080-5683-2765 E-mail: t.s.schlegelii@gmail.com